

有松・I邸 耐震改修工事見学会報告書

平成 24 年 6 月 3 日 (日) 名古屋市緑区有松

主催：なごや歴まちびとの会



I邸正面外観

(歯科医院の看板は隣地です。街道は絞りまつりで盛況。)



I邸1階正面外観

(1階には格子入窓がある典型的な町家づくり)

当日、この旧東海道沿いは「有松絞りまつり」でにぎわう中、有松のシンボリック的存在であつただらうと思われる旧大井桁屋（棚橋邸）を見学した後、旧街道を江戸の方（東へ）に向かい、有松町並み保存地区内の境界あたりにある、この建物であるI邸の耐震改修工事現場の見学をしました。

ここでの見学は、建物の持ち主様をはじめ、設計監理を担当された算建築設計の算 清澄様（なごや歴まちびと 1 期生）の御好意により実現することとなりました。

算 様と建物の出会いは、持ち主様が昨年名古屋市の無料耐震診断の申込みをされて、診断したのが始まりです。現在、耐震改修補強工事中ながら持ち主様の御好意で、施工中の現場を見学させていただきました。

この建物は、明治 10 年頃の新築であると調査で判りましたが、屋根瓦は何処からか移設によるそうです。今は妻側外壁の一部がトタン張りになっていますが、当初は長屋形式で隣家と繋がっていたと思われます。

建物の特徴は、一般的な中二階建て（2 階梁高：約 2.46m 軒高：約 4.00m 最高高さ：約 6.17m）、切妻の瓦葺きで、街道に面した 1 階の前面には半間の土庇と格子が付いている、旧東海道に面した典型的な商家建築物であることです。

私も耐震診断で経験が有ることですが、名古屋市内に建つ明治・大正・昭和初期頃の建物は、農家の建物と比べると柱が細い物件が多く、伝統工法のルートに載る物件がほとんどありません。かつ現在の在来工法とは明らかに違い、耐震評価も低く補強プランがたたないものが多々あります。

この場合もまさにその典型であり、限界耐力計算に拠り改修補強されているという点について非常に興味深く見学させていただきました。

現在の在来工法の建物と違い、基礎の立ち上がりほとんど無く、土台が土に近い為に腐食がひどいとか、柱の建て起しや土台の沈下等の改修方法や、隣地の空きがないための施工が難しい点など、興味あるお話を多く伺うことができました。

私も経験がありますが、このように住まいながらの耐震改修工事は、持ち主様との関係が一番難しいと思われれます。その辺もしっかりとした信頼関係を算様は築かれていると思いました。

最後に屋根がきれいに葺替られ、外壁もきれいに改修された際には、この家が有松の街道にしっかりと馴染んでいるのであろう姿を、もう一度拝見させていただきたいと思いました。

算 様にはこのような機会を与えていただき感謝いたしております。ありがとうございました。

(なごや歴まちびと 山田 浩喜)